

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

## 川崎医療福祉学会 第7回 研究集会プログラム

平成6年11月30日

1. “人が死ぬ”ということ  
— 医療人類学の立場から —

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 近藤 功行

講 演

1. “WHAT I HAVE BEEN TEACHING FOR 40 YEARS.”

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 M. F. McCrimmon

2. 無作為抽出と有意な差

— 統計学の論理とその学習指導に即して —

川崎医療福祉大学 医療情報学科 假谷 太一

### “人が死ぬということ”

— 医療人類学の立場から —

医療福祉学科 近藤 功行

現代の終末期医療では“尊厳ある死”をどの様に変えていくかが模索されている。南西諸島での筆者の地域研究から得られたものは終末期医療に対して伝統的な文化背景を除外してはならないこと、島の特性または地域のアイデンテ

ィティを考慮する必要があるといったことである。地域に根ざした死の意味を探っていく上で、ホリスティックに医療に切り込むためには人類学的手法が有効である。死の周縁部を実証的なデータで押さえた現状を報告した。

### 講演：「私が今まで教えて来たこと」

医療福祉学科 M. F. McCrimmon

語学を教える上で、ここ十数年私が取り組んでいる教材内容は南北問題やそれに関わる世界の諸問題である。日本の学生達がそれらを知らずに大学を卒業するのはいけないと思い、この内容を通して英語を教えている。私の語学教師の経験から、語学を教える時の教材内容は、まず教師自身が興味深く感じ、本当に価値があると思えるものを扱うことが重要であると思う。

聖書とギリシア古典は私が力を注いだもう一方の科目である。これはギリシア、イスラ

エル、インド、中国の四つの古い文明の流れの一つである西洋文明のルーツを聖書とギリシア古典から学習していくものである。それぞれの古代ルーツも併せて学ぶことで今までの、そしてこれからの人類の行方が見えてくるはずである。私は、医福大生に必要な教養として全世界の視野に立ち、英語ではなく日本語で分かりやすく教えてくださる先生がいらっしゃればと願っている。

講演：無作為抽出と有意な差  
— 統計学の論理とその学習指導に即して —

假谷 太一

統計学が研究対象とする集団は、個体差があり観測条件も一定には保ち難く、物理学・化学とは全く違うこと、研究の探索的段階ではともかく、最終段階では統計学が必須なことを述べた。電算機の普及により、偏りのないデータの

収集と、有意な差の判定論理に重点が移り、特に人間を対象とする場合、何に最も留意すべきかを、さらに一般教養・基礎科目の学習は、若い時機に、専門にとらわれない広い視点に立って行うべきことを述べた。